

## 令和7（2025）年度マアジ太平洋系群の資源評価に関する

### 令和7年9月3日付調査・評価部会長宛事務連絡への回答

水産研究・教育機構 水産資源研究所 安田十也

マアジ太平洋系群について、水産庁からの依頼（添付資料参照）に基づき調整係数  $\beta$  を 0.95 とした場合の将来予測の試算を行った。

将来予測にかかる各種の情報については、令和7（2025）年度の資源評価のデータを用いた。各管理基準値についても資源評価と同じく、目標管理基準値案（SBtarget）には MSY 水準における親魚量（SBmsy）、限界管理基準値案（SBlimit）には MSY の 60% が得られる親魚量（SB0.6msy）、禁漁水準案（SBban）には MSY の 10% が得られる親魚量（SB0.1msy）を用いた。再生産関係式およびパラメータ、生物特性値等についても、各系群の資源評価報告書に掲載されている値を用いた。これらの詳細については、以下の速報版および研究機関会議資料を参照されたい。

令和7（2025）年度マアジ太平洋系群の資源評価（速報版）（FRA-SA2025-SC08-02）：

[https://www.fra.go.jp/shigen/fisheries\\_resources/meeting/stock\\_assessment\\_meeting/2025/files/sa2025-sc08/fra-sa2025-sc08-02.pdf](https://www.fra.go.jp/shigen/fisheries_resources/meeting/stock_assessment_meeting/2025/files/sa2025-sc08/fra-sa2025-sc08-02.pdf)

令和7（2025）年度マアジ太平洋系群の管理基準値等に関する研究機関会議資料（FRA-SA2025-BRP02-02）：

[https://www.fra.go.jp/shigen/fisheries\\_resources/meeting/stock\\_assessment\\_meeting/2025/files/sa2025-sc08/fra-sa2025-brp02-02.pdf](https://www.fra.go.jp/shigen/fisheries_resources/meeting/stock_assessment_meeting/2025/files/sa2025-sc08/fra-sa2025-brp02-02.pdf)

当該試算において依頼された  $\beta$  (0.95) およびその周辺の  $\beta$  を用いた将来予測から得られた平均親魚量、平均漁獲量および 2036 年に親魚量が目標管理基準値案を上回る確率を表 1 に、ABC 対象年における資源量予測の不確実性を考慮した場合のリスク評価の概要を表 2 に示す。

ここで、 $\beta=0.95$  とした場合、2026 年の平均漁獲量は 2.4 万トン、2036 年に親魚量が目標管理基準値案を上回る確率は 49% と予測された。

表 1. 将来の平均親魚量および平均漁獲量

平均親魚量(千トン)													2036年に親魚量が目標管理基準値案(5.2万トン)を上回る確率	
$\beta$	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036		
1.00	2.7	3.1	4.1	4.8	5.1	5.1	5.2	5.2	5.2	5.2	5.2	5.2	44%	
<b>0.95</b>			<b>4.2</b>	<b>5.0</b>	<b>5.4</b>	<b>5.4</b>	<b>5.4</b>	<b>5.5</b>	<b>5.5</b>	<b>5.5</b>	<b>5.5</b>	<b>5.5</b>	<b>5.5</b>	<b>49%</b>
0.90			4.3	5.2	5.7	5.7	5.7	5.8	5.8	5.8	5.8	5.8	5.8	55%
0.80			4.6	5.8	6.3	6.4	6.4	6.4	6.5	6.5	6.5	6.5	6.5	65%
0.70			4.9	6.4	7.1	7.1	7.1	7.1	7.1	7.2	7.3	7.3	7.3	76%
現状の漁獲圧			3.2	3.2	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.2	3.2	3.2	14%

平均漁獲量(千トン)

$\beta$	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036
1.00	3.1	2.5	3.0	3.3	3.4	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5
<b>0.95</b>		<b>2.4</b>	<b>3.0</b>	<b>3.3</b>	<b>3.4</b>	<b>3.5</b>						
0.90		2.3	2.9	3.3	3.4	3.4	3.4	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5
0.80		2.1	2.8	3.2	3.3	3.3	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4
0.70		1.9	2.6	3.0	3.2	3.2	3.2	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3
現状の漁獲圧		3.2	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.2

表 2. 管理方策案のパフォーマンス評価の概要、(a):通常の将来予測に基づくケース、(b):ABC対象年における資源量予測の不確実性を考慮したケース

$\beta$	2036年に親魚資源量が目標管理基準値案を上回る確率		親魚資源量が10年間で限界管理基準値案を下回る平均年数		漁獲圧が10年間でFmsyを上回る平均年数	
	(a)	(b)	(a)	(b)	(a)	(b)
1.00	44%	46%	0.0	0.5	0.0	4.3
<b>0.95</b>	<b>49%</b>	<b>49%</b>	<b>0.0</b>	<b>0.3</b>	<b>0.0</b>	<b>3.6</b>
0.90	55%	53%	0.0	0.2	0.0	2.8
0.80	65%	62%	0.0	0.1	0.0	1.2
0.70	76%	72%	0.0	0.0	0.0	0.3
0.60	84%	80%	0.0	0.0	0.0	0.0
0.50	90%	88%	0.0	0.0	0.0	0.0

( 添 付 資 料 )

事務連絡

令和7年9月3日

国立研究開発法人水産研究・教育機構

水産資源研究所 調査・評価部会長 上田祐司 様

水産庁漁場資源課沿岸資源班長

マアジ太平洋系群、マアジ対馬暖流系群及びマイワシ対馬暖流系群の資源評価  
に関する試算等についてのお願い

マアジ太平洋系群、マアジ対馬暖流系群及びマイワシ対馬暖流系群の資源評価について、  
以下の条件での試算及び水産庁主催の会合等における説明をお願いいたします。

令和7年度の資源評価結果に基づき、マアジ太平洋系群およびマアジ対馬暖流系群は  $\beta = 0.95$ 、マイワシ対馬暖流系群は  $\beta = 0.85$  を漁獲管理規則に用いた場合の将来予測結果を示していただきたい。将来予測結果は令和7年度資源評価報告書に示された内容（特に、親魚量の平均値、漁獲量の平均値及び10年後に親魚量が目標管理基準値案を上回る確率等）を対象とする。

以 上